



## 令和6年度 熊本大学教職大学院スタート

熊本大学教職大学院は8年目を迎えました。今年度はストレートマスター26人、現職教員8人、計34人が入学しました。P2の23人とともに、理論と実践の往還めざし、現職教員とストレートマスターと一緒に、経験や教科、校種の違いを生かしながら学びを深め、高度な教育実践力を高めていきます。



### 多様な学びで充実した大学院生活を！ 研究科長 藤田 豊



教育学研究科長の藤田です。令和の時代に入り、少子高齢化は地方において急速に進んでいます。地方の高等教育機関の存続にも深刻な影響を与えかねないと「学修者の視点」で改革が進められています。「私は、何を学び、何を身に付けることができたか？」皆さんが教職大学院での学びを問う時、自信をもって答えて欲しいと思います。多様な学生が集い、多様な教員と出会い、多様な学びで充実した大学院生活であるよう願っています。

### P1院生 による 授業紹介

#### 生徒指導実践論

現場では、生徒指導上の問題が起きた時、どのように対応するのかたいへん悩みます。うまく対応できなかった経験を何度もしました。この講義では、実際の場面を想定して現職とストレートマスターで対話しながら、よりよい解決の方法について意見を出し合っていきます。講義の中で一番心に残ったことが、荒れを克服している学校は「中間的集団」や「真面目な集団」を巻きこんで課題解決に当たっているということです。生徒指導上の問題があったとき、担任だけで解決するのではなく、児童生徒と一緒に解決できる集団づくりをしていかなければならないと感じました。



(P1 一安 尊正)

### P2院生 による 研究紹介

#### 中学校技術科におけるプログラミング教材の開発と授業実践

中学校技術・家庭科(技術分野)に「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決」という学習内容があります。現行の学習指導要領から追加された学習内容で、これまで悩みながら実践していました。これは私だけの悩みではなく、多くの先生がこの学習内容の指導に苦慮しています。本研究で魅力的な教材や実践事例を開発し、現場の先生に、「その教材使ってみたい!」「その授業やってみたい!」と感じていただけるよう、真摯に研究に励んでいきたいと思っています。



(P2 西 陽平)